**山内　悠 （やまうち・ゆう）**

**１、プロフィール**

師範学校在学中から詩誌に作品を発表し、教職に就いて児童らと始めた回覧雑誌「泉」は27号まで続いた。

＜生没＞

1912（明治45）年７月27日 ～ 1943（昭和18）年２月13日

＜代表作＞

『山内悠遺稿集　無窮動』

＜青森との関わり＞

下北郡大畑町に生まれ、青森師範学校を卒業後、三戸郡下の小学校に勤務、後に西浜地方で教鞭をとった。

**２、作家解説**

本名は庸行（つねゆき）で、明治45年に大畑町で生まれる。昭和８年３月に青森師範学校を卒業する。その間、師範学校校友会誌・詩誌「北」に作品を発表している。

三戸郡下の階上村、上郷村の各小学校に勤務するが、階上村在勤中の受持ち児童らと回覧雑誌「泉」をはじめる。「泉」は27号をかぞえた。

上京の願いや文学者たる望みを抱いていたが、肺結核が高じ、昭和17年秋、教職を辞し、翌年２月死去する。享年32歳。

昭和48年12月に発刊された『山内悠遺稿集　無窮動』には、詩が長短16編、感想２編、小舘衷三宛書簡（昭和15年９月７日付～18年１月９日付）90通が収められている。

遺稿集を贈られた川端康成、外村繁らからは、悠の才能を惜しむ手紙が送られてきたが、生前の交友の広さが偲ばれる。

**３、資料紹介**

〇『山内悠遺稿集　無窮動』

図書

1968（昭和43）年12月10日

180mm×130mm

詩が16編、感想２編、小舘衷三宛書簡90通が収められている。特に書簡には、多くの書名、作家名の記載があり、悠の知識欲が伝わってくる。